

公益財団法人京都市芸術文化協会

令和6年度 事業計画

昨年、文化庁の全面的な移転、京都市立芸術大学の京都駅東部エリアへの新キャンパス移転が完了し、令和6年度は大阪・関西万博の開催を翌年に控え、文化芸術を発信する契機となる重要な時期が続いています。

当協会では、令和3年度に策定した「中期ビジョン」の実現に向けて、「交流の場づくり」、「学びの機会づくり」、「文化芸術の支援」、「調査・研究」の4つの活動の柱に基づき、また京都芸術センターの指定管理者として、引き続き、京都市の芸術文化の発展に寄与できるよう「自主事業」「受託・共同主催事業」「京都芸術センター運営事業」を実施します。

また、寄附の獲得や新たな収益事業の検討といった自主財源の確保に向けた取組を引き続き進めるなど、自立した経営に向けた今後の方策を確立します。

I 自主事業

1 芸術文化に関する調査研究及び情報の提供

(1) 文化誌『藝文京』の発行

地域に根差した芸術文化を未来につなぐ視点で、寄稿や取材、対談、インタビューなどを掲載した文化誌を発行します。これを通して、「京都」という土地のもつ歴史や伝統、人、文化芸術について広く調査し、記録するとともに、当協会の活動やあゆみを紹介し、アーカイブ（保存記録）としての役割も担います。

(2) 協会ウェブサイトの運営

協会ウェブサイトを運営し、事業や会員催事情報の告知、活動レポートや資料の公開など、芸術文化や協会に関する情報を発信するとともに、オンライン上のアーカイブ（保存記録）としての役割も担います。

2 各種芸術文化事業の実施及び奨励

(1) 第75回華道京展

華道発祥の地である京都において、華道界の連携を図り、市民文化の向上に寄与するいけばな展を、第75回となる今回は「ときめく気持ち、花めく心～これからも、ずっと～」をテーマに、京都市、京都いけばな協会、(公社)京都市観光協会とともに大丸ミュージアムで開催します。(4月4日～9日)

なお、会期中に大丸京都店と連携し、子ども向けのワークショップも実施します。

(2) 市民狂言会【後掲】

3 芸術文化に関する教育及び普及

(1) 藝文京芸術教室

夏休み期間中の子ども向けに、多様な分野の文化芸術に関するレクチャー、ワークショップ、鑑賞会等を開催し、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出します。

開催日	事業名称	講師及び対象	会場
夏休み期間 に開催 (8月)	藝文京芸術教室 (分野及びテーマ は今後調整)	講師:協会会員及び京都芸術センタ ー事業で連携するアーティスト 対象:子ども(親子)を含む一般 共催:京都市	京都芸術センター

(2) 藝文京コンサート「ピアノの時間」の開催

当協会会員の推薦等により、学生を含め若手の演奏家等によるコンサートを、昨年度に引き続き開催します(無料、年3回程度)。

芸術センター内の講堂や大広間等でのイベントがない日時に、これまでは十分に活用できていなかったグランドピアノ及びスペースを活用し、気軽に音楽に触れる機会を創出するとともに、市民の方々等が芸術センターに来館する契機となり、また多様な方々が交流する場となることを目指します。

開催日	事業名称	出演者及び対象	会場
年3回程度 (予定)	ピアノの時間	出演者:未定(協会会員の推薦等 により若手の演奏家等を予定) 対象:一般 共催:京都市	京都芸術センター

4 芸術家等の育成及び顕彰

(1) 京都いけばなプレゼンテーション2024

当協会華道分野会員の協力のもと、6月6日の「いけばなの日」にちなみ、いけばな文化を広く発信し、その魅力や花のある暮らしの喜びを様々な切り口で紹介するイベントを開催します。今年度は、「Leaf～葉をいける～」をテーマとするいけばな展及び子どもや一般の方を対象とする体験の機会等を実施します。

開催日	事業名称	協力等	会場
6月 1・2日	京都いけばなプレゼ ンテーション2024	協力:京都いけばな協会 (団体会員) 共催:京都市	京都芸術センター

(2) 第49回京都ビッグ・バンド・フェスティバル

京都府吹奏楽連盟の協力のもと、小学生から社会人までの世代ごとに選抜されたプレイヤーが合同演奏を行う演奏会で、高いレベルでの相互交流を深め、演奏技術の向上と将来の音楽文化を担う人材の育成を目指し開催します。

開催日	事業名称	主催・出演等	会場
令和7年 2月2日	第49回 京都ビッグ・ バンド・フェスティバル	協力：京都府吹奏楽連盟(団体会員) 出演：京都府吹奏楽連盟所属団体 共催：京都市	京都コンサート ホール大ホール

(3) 芸術家等の顕彰

当協会に所属する会員を対象とし、京都市芸術文化協会賞として、近年の芸術文化活動が特に顕著な方や、芸術文化の向上に多大の功労があったと認められる方を、また、同新人賞として、新進で活発な芸術文化活動が認められる方や、今後の芸術文化活動においてさらにその活躍が期待される方を、それぞれ表彰します。

5 その他芸術文化の振興を達成するために必要な事業

(1) 藝文京サロン

文化芸術について語り合うと同時に、芸術文化分野だけでなく、学校、企業、行政など、あらゆる立場の方が交流し、芸術文化協会の文化芸術を軸としたネットワークハブとなることを目指して、令和4年度に始めた藝文京サロンを継続開催します。

(2) 「明倫ロケーション・ボックス（仮称）」

芸術センターの施設の一部について、営利目的での撮影希望者等に有料で貸し出すなど、協会として新たな自主財源の確保に取り組みます。

今後のスケジュール（予定）

～6月	受け入れ制度・内容確定、要綱整備
8月頃	ホームページ掲載、リーフレット発行(募集開始)
秋頃	受け入れ開始

(3) その他会員関連活動等

ア 総会・懇親会

令和6年7月9日に会員総会を開催予定（会場：京都ホテルオークラ）。

同日、会場にて協会賞・新人賞の表彰を行い、会員同士の交流を図る懇親会を開催します。

イ 協会の魅力発信（広報）

協会の事業や役割を紹介するとともに、芸術家による会員組織ならではの魅力を、インターネットやリーフレットを通じて広く発信するとともに、公益財団としての強みを生かした寄付獲得に努めます。

Ⅱ 受託・共同主催事業

京都を新たな魅力に満ちた文化芸術都市として創生することを目指して制定された「京都文化芸術都市創生条例」及びその具体的な指針となる「第二期京都文化芸術都市創生計画（平成29年3月策定）」等に基づく事業を受託及び共同主催し、当協会の広範な芸術家のネットワークと文化事業の実績、ノウハウ等を活用して事業を実施します。

1 市民狂言会（共同主催）

伝統芸能である狂言を、楽しく気軽に鑑賞する機会を広く市民に提供するため、年4回、京都観世会館において京都市と共同で狂言会を開催します（令和6年度は、毎回解説付き）。（6月7日、8月23日、12月6日、令和7年3月7日）

2 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた文化芸術に触れる取組

（1）文化芸術授業（ようこそアーティスト）（受託）

京都市内の小・中・総合支援学校、幼稚園、保育園（所）、児童館等を対象に、伝統芸能から現代美術まで、多様なジャンルのアーティストを講師として派遣し、特別授業を行います。（約60校で実施）

（2）伝統公演授業（ようこそ和の空間）（受託）

京都市内の中学生を対象に、和の文化を体感できる能楽堂において、伝統芸能を鑑賞する事業を実施します。（1日2公演）

3 伝統芸能文化創生プロジェクト（共同主催）

京都市と共同で実施している伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス（略称：TARO）では、伝統芸能文化に関係する個人や団体のネットワークの構築や基礎調査等のほか、伝統芸能文化を現代に適応した形で活性化することを目指す取り組みを行っています。

令和6年度は「伝統芸能文化復元・活性化プログラム」として、令和5年度以前から進行中のプログラム（9件。以下参照）を着実に進めながら、1件の新規採択を行うとともに、新たな取組として交流ネットワーク事業（シンポジウム等。詳細未定）を実施する予定です。

- ①若手へ向けた鯖江人形浄瑠璃の技能継承と他地域との交流
- ②社・東条を中心とした播州音頭踊りの継承と発信プロジェクト
- ③十津川盆踊りの伝承・保存・活用発信
- ④新素材による鉦すりの試作と生産業者の探索
- ⑤見島のカセドリ蓑藁製作技術の確保計画
- ⑥古物重厚意匠糊地能楽扇の写し製作
- ⑦笛譜・唱歌制作による石見神楽の継承円滑化事業
- ⑧三味線音楽のScratch教材開発：常磐津節を通じて日本の伝統芸能に親しむための教育プログラムづくりとその普及の試み
- ⑨郷土芸能の若手継承へ向けたネットワークの構築と発信手法の模索

4 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2023（共同主催）【後掲】

5 アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業（受託）

全国のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の拠点となるためのプラットフォームを構築し、国際文化交流をより一層加速させ、世界中からアーティストやAIRの情報が京都に集まる環境整備を進めます。

（１）情報集約・発信

これまでにネットワークを構築したAIR施設等の情報をまとめたデータベースを活用し、日本のAIR情報を一元的に世界に向けて発信するウェブプラットフォームを運営します。

（２）調査研究・AIRに関するアーカイビング

AIRプログラムの事例を調査し、紹介するほか、日本、世界でのAIRに関する議論を深めアーカイブ化します。

（３）ネットワーク構築

AIRに関する様々な相談に応じるための窓口機能を設置します。

（４）国内芸術関係者向けのWebサイト構築【新規】

駐日欧州連合代表部、ゲーテ・インスティトゥート東京と協働し、EUのアーティスト・イン・レジデンスを日本のアーティストに紹介する特設のサイトをAIR_Jのウェブサイト内に構築し、日本の芸術関係者に情報を提供します。

6 京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）の運営（受託）

文化芸術関係者の活動に関する相談等に総合的に対応するため、令和3年度に京都芸術センター情報コーナー内に設置した総合相談窓口（KACCO）を継続して運営します。電話、メール、オンライン、対面等による相談受付、相談会の実施、士業相談、メンタルケア、芸術家・芸術関係者の移住・定住に係る相談受付、その他講座やワークショップ等を企画し実施します。

7 京都市助成金等内定者資金融資制度融資窓口業務（受託）

8 アート×ビジネス推進事業（受託）

京都芸術センターの施設の一部を活用して、スタートアップ企業等のオフィスとして京都市が貸し出すとともに、芸術センターに集う若手アーティストと入居企業等との交流をはじめ、広く芸術関係者と企業等との交流やマッチングの機会づくりを積極的に推進します。

（１）セミナー・交流会

アーティスト、企業双方の方が関心のあることをテーマに、年3回程度のセミナー及び交流会を実施します。

（２）事業開発

令和5年度にモデル事業として市職員を対象に実施した研修内容をブラッシュアップし、企業向け研修プログラムを作成し、企業向けにアプローチを行います。

（３）マッチング事業

アートとビジネスに関する相談窓口を開設し、マッチング支援を行います。

9 京都市自治記念式典オープニングセレモニー（受託）

10月15日に開催される京都市自治記念式典のオープニングセレモニーにおいて、協会の持つネットワークをいかし、伝統文化によるパフォーマンスを実施します。

Ⅲ 芸術文化活動拠点施設運営事業

京都における芸術文化活動拠点施設である京都芸術センターの運営を通して、芸術活動の支援、芸術文化情報の発信、芸術を通じた芸術家と市民等との交流を行うことで、芸術家や芸術関係者が連携して、京都における芸術を総合的に振興することを目的とする事業です。

当協会では、京都芸術センターが開設された平成12年4月から、京都市からの業務委託を受けてセンターの運営を行っており、平成18年度からは、地方自治法の改正に伴い、指定管理者として管理運営を行っています。

令和7年度に京都芸術センター開設25周年を迎えるに当たり、令和6年度は25周年記念プロジェクトを設置し、記念式典・事業の検討等を行います。

【活動センター機能】

1 制作支援事業

(1) 制作支援事業（制作室使用者の公募）

京都芸術センターの基幹事業として、制作室の使用者を年2回（3月及び9月）公募し、審査のうえで1申請につき最長6ヶ月間（令和6年度から変更）、制作室を無償で提供します。

また、使用者は月例の使用者連絡会に出席し、明倫ワークショップ等を通じて市民との交流を図ります。

(2) Co-program2023（企画公募）

アーティストや芸術団体から京都芸術センターと協働して実現する企画を公募し、審査を経て採択された公演や展覧会、実験のプロセス等を総合的に支援します（制作室の提供、制作費の一部負担、発表場所の提供等）。

① カテゴリーA：「共同制作」（公演事業）2件

実施時期	事業名	アーティスト又は団体名
12月	「更地」	河井朗（ルサンチカ）
2025年3月	「MOURNING TIME」	Belle Santos & Emi Ogura

② カテゴリーB：「共同開催」（展覧会事業）2件

実施時期	事業名	アーティスト又は団体名
7月～8月	「すぢかふ 庭／入れ違ふ ふすま」	企画：河村清加、出品作家： 婦木加奈子、丸山のどか
11月～12月	「Body Buddy Baby（ボディ・バディ・ベビー）」	企画：川松康徳、出品作家： 吉川永祐、高橋順平、内田望美、川松康徳

③ カテゴリーC：「共同実験」（リサーチ、レクチャー、ワークショップ等）2件

実施時期	事業名	アーティスト又は団体名
調整中	「即興と辺境（仮）」	八幡亜樹
調整中	「記号から解放された視覚言語のリサーチ（仮）」	Po!coco（ポココ）

（3）U35創造支援プログラム「KIPPU」（公募事業）

創作に専念できる京都芸術センターの制作室と、舞台設備の備わったロームシアター京都ノースホールの提供を通じて、舞台機構を活用し、作品規模の拡大等に挑戦する概ね35歳以下のアーティストを募集します。

審査を踏まえ2団体を選出し、制作面でのアドバイスや批評の依頼も行います。

実施時期	採択アーティスト・団体	内容
9月	プロトテアトル <大阪>	「protothéâtre=試作劇場（あるいは試作演劇）」。扱う作品に決まった形はないが、人生において普遍的であり、誰もが共感できる出来事を扱うことが多い。静かでリアルな会話を主とし、観客の過去の思い出や経験を呼び起こす。
12月	Dr. Holiday Laboratory（ドクターホリデーラボラトリー）<東京>	山本伊等、小野寺里穂、ロビン・マナバットをメンバーとして、2021年に東京で結成。小説や詩、川柳等を使用しながら、ときに文法の破綻も孕む多層的な戯曲と非日常的で不気味な笑いを含む演出を特徴とした舞台は、小説家の保坂和志氏や現代美術作家のミヤギフトシ氏をはじめ、他ジャンルの作家からも評価を得ている。

（4）京都国際ダンスワークショップフェスティバル2024

一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメントとの共同主催として、国際的に活躍する講師を招き、ダンスワークショップを実施します。

会場は、京都芸術センターのほか、中京青少年活動センター、瓜生山学園京都芸術大学楽心荘でも開催し、若手層へのリーチを強化します。

開催日	講師
8月12～20日	シュカ・ホルン（ドイツ）、カティア・ムストネン（フィンランド）、ジェームス・フィンモア（イギリス）、エマニュエル・ユイン（フランス）、ニア・デ・ヴォルフ（ドイツ）、宗貫、野村香子、坂本公成+森裕子（以上日本）、ほか

2 発表支援事業

(1) 美術作家の展示（展覧会事業）

① 若手美術作家のグループ展

開催時期	事業名	内容
3月30日～ 6月9日	林智子「そして、世界は泥である」	京都を拠点に置く中堅作家の林智子の人々の記憶をモチーフに、人の「内なる自然」と外なる自然との照応関係を体感させる新作インスタレーションを発表する。

② 中堅美術作家による個展

開催時期	事業名	内容
令和7年1月～3月	若手作家選抜展	京都の各芸術系大学から選抜した新進気鋭の若手アーティストによるグループ展を、卒展のシーズンに合わせて開催することを検討中。

(2) KAC Performing Arts Program (KACPAP)（公演事業）

演奏者・俳優・ダンサー等の、プレイヤーの芸術的な探求の機会を提供し、その成果を広く発信します。

実施時期	アーティスト	内容
8月下旬	深見まどか（ピアノ）ほか	プリペアド・ピアノや内部奏法の実践機会を設けるとともに、拡張奏法に着目したワークショップ&コンサート。
6月～ 令和7年2月	公募および推薦にて選抜した俳優・パフォーマー	俳優の主体的な芸術的探求と創作、発信を軸とした人材養成事業。年度末に成果報告会を実施する。
7月	増川建太ほか、研究者等	俳優の主体的な芸術的探求と創作、発信を軸とした人材養成事業。年度末に成果報告会を実施する。

(3) KACパートナーシップ・プログラム2024（企画公募・共催事業）

①公演や展覧会の発表支援、②シンポジウムやレクチャー等、創造環境整備や情報交流、人材育成等に資する事業を対象に、公募を通じて京都芸術センターの施設を提供する活動を選定し、共催します。現在選考中（応募総数40件、一次審査通過10件、採択件数5件予定）

3 伝統的芸術の継承・創造事業

(1) 明倫茶会

学術、芸術、文化、産業等の様々な分野で活動している方を席主として、趣向を凝らした茶会を開催します。(4回程度開催予定)

実施時期	席主	内容
5月下旬	林智子 (現代美術作家)	3月から6月までギャラリーで展覧会を開催中の林智子氏を席主に迎え、展覧会の内容をより深く体験できるお茶会を開催する。 お菓子：御菓子丸、お茶 (煎茶)：武田真彦
未定	株式会社みたて	【アート×ビジネス推進事業として実施】
9月下旬	SÉBASTIEN PLUOT (キュレーター)	ニューイ・ブランシュの企画として実施する展覧会のスペシャル・イベントとして実施。 工芸をテーマにした茶会。
ほか、1回予定		

(2) 【40周年記念】トラディショナル・シアター・トレーニング2024 (T.T.T.)

国内外の芸術家・研究者等を対象に、一流の講師陣による直接的な指導のもと、日本の伝統芸能の基礎知識・技術等を習得するプログラムです。

開催時期	内容
7月18日－8月9日	令和6年度は能と狂言の2コースとオプションで日本舞踊と小鼓のコースを開講。約3週間の稽古を行った後、その成果を大江能楽堂にて発表する。 40周年記念ディレクター：ジョナ・サルズ アシスタント・ディレクター：ジェーン・トレーナー

4 先駆的・実験的事業

(1) KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2024 (共同主催)

国内外の実験的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指す国際舞台芸術祭です。10月5日から10月27日まで、京都芸術センター等の会場で国内・海外から先駆的な作品を紹介します。

(2) ニュイ・ブランシュ KYOTO 2024

アンスティチュ・フランセ関西と共同でニューイ・ブランシュ(白夜祭)を9月末に実施します。

開催時期	内容
9月7日～9月29日	フランス人キュレーターSÉBASTIEN PLUOTによる日本の工芸や美術に新しい視点をもたらす展覧会。日本の風土によって育まれたやわらかでささやかな偶発的な対処法、偶発的な出来事に寄り添う態度や姿勢に焦点をあてる。ニューイ・ブランシュのオープニング週には茶会も開催。
9月末～10月	【ビデオジャーニー】 海外のインスティチュートと連携し、映像のエクスチェンジを行うプログラム。映像作品を公募し選出予定。

(3) KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2024

京都市が共催しているKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2024の展示会場等として芸術センターを使用します。

開催時期	内容
4月13日～5月12日	KYOTOGRAPHIE 2024メインプログラムの一つであるJames Mollison「Where children sleep (子どもたちが眠る場所)」の展示等

5 芸術家・芸術関係者育成事業

(1) アートマネジメント講座

アートマネジメント専門人材の育成を図るため、ロームシアター京都、NPO法人京都舞台芸術協会等と連携し、包括的な連続講座を実施します。

【情報センター機能】

1 芸術文化情報の収集・発信事業（センター施設内）

(1) 図書室の運営

京都芸術センター主催事業のアーカイブ及びそれに準じる芸術文化に関する資料の収集と保存を主な目的とし、センターならではの資料室としての役割を強化します。

来館者や制作室利用者にとっての資料の親しみやすさを考慮し、収蔵図書や資料を紹介するイベントを随時開催します。

(2) 情報コーナーの運営

芸術文化に関するイベント情報等のポスター、チラシ等を収集し、年間約700種を掲出します。

2 芸術文化情報の収集・発信事業（オンライン）

(1) 京都芸術センター・ウェブサイト

令和6年4月にフルリニューアルしたウェブサイトを活用し、京都芸術センターの施設案内、イベント情報等を発信します。

(2) 京都芸術センター・メールニュースの発行、SNS

京都芸術センターにおける各種事業を告知するメールマガジンを配信します（毎月配信）。

また、速報性のあるTwitterやFacebook、instagramといったSNSも効果的に活用し、発信力を高めます。

(3) 京都文化芸術オフィシャルサイト (KYOTO ART BOX)

京都市の文化芸術全般の情報を集約したウェブサイトを運営します。平成27年度より京都芸術センター事業として実施し、京都文化芸術コア・ネットワークとの連携をはかり、プロジェクトやメンバー実施事業のレポート等を掲載しています。

なお、令和5年度にKYOTO ART BOX内に開設した子ども向けサイト「FOR KIDS」を運営し、引き続き、子ども向けの情報発信にも努めます（京都市受託）。

(4) 京都文化芸術コア・ネットワーク

京都を中心に文化芸術を支える専門的活動を行う者が、多種多様な情報を収集、編集、発信するため、情報交流のプラットフォームとしての京都文化芸術コア・ネットワークを運営します。メンバーが企画実施するプロジェクトのサポート等を行います。

【交流センター機能】

1 アーティスト・イン・レジデンス (AIR) 事業

国内外の組織と連携し、多様なアーティストの京都でのリサーチや滞在制作を支援します。

また、京都を拠点とするアーティスト等の海外派遣も積極的に取り組み、国際文化交流・人的交流のハブとしての役割を果たします。

(1) 公募プログラム【招聘】

滞在期間	参加者名	渡航先 (ジャンル)	概要
12月1日～ 令和7年2月 28日	ARPITA AKHANDA	インド (ビジュアルア ート)	個人史を軸に、紙折りやパフォー マンス、インスタレーションの形 式で作品を発表している。京都で は川や水脈のリサーチを行うと ともに、京友禅を学び、それを取 り入れた紙巻物の制作を行う。

(2) 海外文化機関等からの派遣アーティストの受入れ

滞在期間	参加者名	居住国 (ジャンル)	概要
4月1日～ 5月30日	Hervé Garcia	ドイツ (絵画)	【Quartier am Hafen との連携】 沖縄などに私費滞在しリサーチ したのち、京都における水脈のリ サーチを行う。
10月1日～ 11月30日	未定	ノルウェー (未定)	【OCA (Office for Contemporary Art Norway) との連携】 NPO 法人 ANEWAL Gallery、京都府 住宅供給公社とも連携し実施。

(3) 海外文化機関等へのアーティスト派遣

滞在期間	参加者名	渡航先 (ジャンル)	概要
4月～5月	石黒健一	オーストラリア (美術)	Creative Australia (旧 Australia Council for the Arts) と連携し、Parramatta Artists' Studio に派遣する。
6月～7月	黒川岳	ノルウェー (美術)	Office for Contemporary Art Norway と連携し、ノルウェー・ダレー市のレジデンス施設 Nordic Artist's Centre Dale に派遣する。

2 市民及び芸術家等との交流事業

(1) 明倫ワークショップ

制作室使用者が市民との交流を図るため、ワークショップを無料で実施します。

(2) STUDIO OPEN DAY

明倫ワークショップを軸として、様々なイベントを集中的に開催します。京都芸術センターの制作支援事業の周知を図るとともに、活動するアーティストと市民の出会いの機会を創出します (年2回程度)。

(3) 明倫レコード倶楽部

講師に作家のいしいしんじを迎え、レコード鑑賞を中心に、趣向を凝らした音楽鑑賞会を開催します (年3回程度)。

3 教育普及事業

(1) 鑑賞支援プログラム

市民への芸術センターの認知度向上及び活動(作品)理解を図る講座等を開催します。

4 地域・学術・産業との連携事業

(1) 地域との連携事業

開催時期	事業名
6月14日	ペトロフ・ピアノコンサート (主催)明倫ペトロフの会、明倫自治連合会、京都芸術センター
11月 (予定)	明倫フェスタ (主催)明倫自治連合会

(2) ボランティア制度

展覧会の看視や公演の受付等、京都芸術センターの活動をさまざまなかたちで支えるボランティア制度を運営しています。

ボランティア・スタッフは、事業のサポートのほか、ボランティア・スタッフによる有志の自主的活動である京都芸術倶楽部や古典芸能勉強会、茶の湯サロン「いっぷく」などを通じて芸術に関する知見を深めるとともに、ボランティア・スタッフ同士あるいはボランティア・スタッフと京都芸術センターを訪れるアーティスト等との交流を深めています。

※登録者数：169名（令和6年3月1日現在）

(3) 京都芸術センターサポーター会（通称：KACサポーター）【見直し】

京都芸術センターの支援組織として設置していた友の会及び協賛会を統合し、令和6年度から京都芸術センターサポーター会に移行します。

今後は、広報面を強化し、京都の若い芸術家たちの活動を知り、応援したいという方々からの支援を呼び掛けます。

なお、会員特典としては、芸術センター内のチケット窓口やカフェで使用可能なKACチケットの配布等を行います。

・KACサポーター会

（会費）個人会員10,000円、団体・法人会員50,000円

※いずれも税制上の優遇措置を受けられます。

(4) 企業協賛

京都芸術センターの事業をより充実させることを目的に、企業等からの協賛金の獲得を目指します。また、資金提供のほか、アーティストが滞在するためのホテルや作品のための素材や技術等、宿泊場所や物品協賛の獲得も目指します。

5 KAC25周年記念事業等【新規】

令和7年度に京都芸術センター開設25周年を迎えるに当たり、令和6年度は「KAC25周年記念プロジェクトチーム（仮称）」を設置し、記念式典及び事業を企画するとともに、これまでの活動を振り返り、今後のミッション等を検討します。

(1) プロジェクトチームの設置

(2) 25周年記念式典及び事業の検討

(3) 上記の資金獲得を目的としたクラウドファンディングの実施

(4) アーカイブ（記録冊子の作成等）